

目次

はしがき

初出一覧

第1章 名誉毀損罪と侮辱罪の間隙

——人の肌の色，出自，民族等の属性に対する誹謗・中傷について

I 問 題	001
II 京都地裁平23年4月21日判決（第一審）及び 大阪高裁平23年10月28日判決（控訴審）	002
1 事案の概要	
2 事案に関する刑事判決	
III 名誉の保護について	005
1 名誉保護と表現の自由	
2 特定個人の名誉の保護	
IV 事実の摘示について	008
1 刑230条の「事実」とは？	
2 集団に向けられた侮辱的表現と名誉保護	
V 特定の属性を有する人々に向けられた侮辱的表現	011
1 属性を理由とする侮辱的表現の問題性	
2 ヘイト・スピーチと名誉の保護	
3 なぜヘイト・スピーチが発せられるのか？	
VI ヘイト・スピーチの社会侵害性	015
1 ヘイト・スピーチに対する日本政府の態度	
2 ヘイト・スピーチに対するドイツの対応	
3 ドイツ刑法の民衆扇動罪（ドイツ刑130条）	
4 ヘイト・スピーチの侵害性	
VII 小 括	022

第2章 刑法における名誉保護犯の処罰範囲 ——ヘイト・スピーチに対する刑事規制の可能性

I 問題	027
1 検討課題	
2 名誉保護法制の射程範囲	
II 名誉毀損罪と侮辱罪における客体の範囲	029
1 名誉の一身専属性	
2 集団の名誉について	
3 統一的意思をもたない集団の名誉	
4 ドイツ刑法における集団侮辱	
III 名誉保護犯における法益に関連する射程範囲	036
1 集団に対する侮辱的表現の侵害の中身	
2 ドイツにおける集団に対する侮辱的表現への対応	
3 規制対象となる表現行為	
IV 平等保護としてのヘイト・スピーチ規制	040
1 基本的人権としての表現の自由とヘイト・スピーチ	
2 社会的平等の侵害	
3 民主政を自壊させるものとしてのヘイト・スピーチ	
V 集団に対する侮辱的表現の規制のあり方	048
1 同じ人間であることの否定そして対等な社会の構成として生きることの否定	
2 平川宗信の提案	
3 人間の尊厳、社会的平等そして民主政	

第3章 刑法及び民法における名誉毀損の攻撃客体について ——人種差別撤廃条約の「人種差別」概念に係る ヘイト・スピーチと名誉毀損

I 問題	055
1 名誉保護法制における「人」の範囲	
2 集団に向けられた侮辱的表現は無害か？	
II 属性に対する攻撃への人種差別撤廃条約の適用の可能性	059
1 憲法98条2項と条約	
2 条約の間接適用について	
3 差別表現が「人種差別」に該当するとした事案	
4 本事案の意義と課題	
III 人種差別と名誉毀損の交錯と相違	068
1 名誉保護法制の「人」の射程範囲	

- 2 名誉の保護とヘイト・スピーチの相違
- 3 ヘイト・スピーチの侵害性に即した法的対応の必要性
- 4 ヘイトクライムの前段階としてのヘイト・スピーチ

第4章 ヘイト・スピーチ規制における「明白かつ現在の危険」 ——刑法からの視点

I	問 題	081
1	処罰に対するヘイト・スピーチ	
2	民主政の保障のためのヘイト・スピーチ規制	
3	合憲的ヘイト・スピーチ規制のための検討課題	
II	「明白かつ現在の危険」の基準とは？	089
1	合憲性を担保するための「明白かつ現在の危険」という基準	
2	「明白かつ現在の危険」の基準の限界づけ	
3	「明白かつ現在の危険」の基準とヘイト・スピーチ規制立法	
III	合憲限定解釈のための危険判断の基準としての 「明白かつ現在の危険」	097
1	可罰的ヘイト・スピーチと危険判断	
2	東京高裁昭62年3月16日判決について	
3	「明白かつ現在の危険」の基準と危険判断の具体化・客観化	
IV	問題解決の試みの例としての適性犯概念	107
1	適性犯概念	
2	刑罰法規における危険の限定	
V	小 括	111
1	ヘイト・スピーチに関する規制範囲	
2	ヘイト・スピーチ規制における危険の限定	

第5章 ヘイト・スピーチの定義

I	ヘイト・スピーチの定義	126
1	ヘイト・スピーチの態様	
2	ヘイト・スピーチの類型	
3	ヘイト・スピーチ固有の害悪	
4	「不快」規制としてのヘイト・スピーチ規制？	
II	検討課題	134
	公然のヘイト・スピーチ	
III	名誉毀損，脅迫，強要の保護法益と保護対象	136
1	ヘイト・スピーチとは？	

2	各国のヘイト・スピーチ立法制と行為態様	
3	脅迫について	
4	扇動について	
5	侮辱について	
6	人間の尊厳と平等侵害に関する脅迫、侮辱そして扇動の意義	
IV	最狭義のヘイト・スピーチとしての民族虐殺の扇動	150
V	小 括	151
第6章	ヘイト・スピーチとしての歴史的事実の否定と再肯定表現に対する法的規制	
I	問 題	160
	歴史的事実の否定の問題性	
II	歴史的事実の否定、再肯定表現に対する規制の保護法益	163
1	ドイツにおける歴史的事実の否定並び賛美に対する規制	
2	歴史的事実の否定並び賛美に対する規制の保護法益	
3	集合的記憶の保護のための歴史的事実の否定並び賛美に対する規制	
4	公共の平穏保護のための歴史的事実の否定並び賛美に対する規制	
5	未解決の疑問	
III	人間の尊厳の侵害としての歴史的事実の否定	181
1	スイスにおける歴史的事実の否定並び賛美に対する規制	
2	不快感とタブー規制	
3	歴史的事実の否定並び賛美に対する規制の意義の検討	
第7章	人種差別表現規制の法益としての人間の尊厳	
I	問 題	195
1	保護法益について	
2	名誉について	
II	人間の尊厳	197
1	人間の尊厳について	
2	諸権利を持つ権利としての人間の尊厳	
III	個人の尊重の定義	200
1	個人の尊重について	
2	人間の尊厳と個人の尊重	
IV	小 括	207

第8章 人種差別表現と法の下での平等

I 問題	212
1 ある会話	
2 ヘイト・スピーチ規制における保護法益	
II 法の下での平等の意義	216
1 個人の尊重	
2 法の下での平等の評価	
3 「個人の尊重」の射程	
III ヘイト・スピーチとの関係における法の下での平等	220
1 ヘイト・スピーチの主体と客体そして平等	
2 平等侵害の独自性	
IV 小括	224
1 平等侵害としてのヘイト・スピーチ	
2 人間の尊厳の否定と平等の侵害としてのヘイト・スピーチ	

終章 人種差別表現と個人的連関

——特定(諸)個人に向けられたヘイト・スピーチについて

I 問題	229
1 日本におけるヘイト・スピーチ	
2 ヘイト・スピーチ解消法の制定	
3 ヘイト・スピーチ解消法制定後のヘイト・スピーチ規制	
II ヘイト・スピーチ規制の保護対象	236
III 人種差別表現に対する現行法による対応	239
1 平川宗信による人種差別表現に対する立法提案	
2 ヘイト・スピーチが惹起する害悪	
IV (諸)個人に向けられたヘイト・スピーチ	248
1 理念法の下でのヘイト・スピーチに対する制裁の可能性	
2 処罰範囲の限定の試み	
V ヘイト・スピーチに対する立法提案	254